

# 2023 年度・山梨学院大学 ライティング・サポートデスクにおける取り組み

竹内はるか

## 1. はじめに

2023 年度は、山梨学院大学のライティング・サポートデスク（以下「ライサポ」という）が、現在のように常駐教員を置いたり、サポーター学生を配置したりする体制になって2年めの年となった。近藤（2023）によると、本学の多くの学生は、大学入学前に1200字を超える文章を書いた経験がないという。また、大学入学後に行ったプレ課題では、資料の内容よりも、自分の行動など自分に軸を置いた文章を書く学生も散見されたという。このような特徴をもつ学生が多い本学では、大学で求められる客観的な資料を根拠としたレポートや、文字数の多い文章を書く際の授業外でサポートが重要になると考えられる。

本稿では、本学ライサポの特色である正課授業「言語技術」との協働の観点から、ライサポの利用者数とライサポに関するアンケート調査の結果を報告する。

## 2. 山梨学院大学ライティング・サポートデスクの特色

先述のとおり、本学ライサポの大きな特色は、法学部、経営学部の初年次履修指定科目「言語技術」と協働している点にある。「言語技術」の担当教員、スチューデント・アシスタント（以下「SA」とする）がライサポに在室し、学生対応にあたっている。そのため、「言語技術」の授業を欠席してしまった場合の質問や、

授業での内容理解に不安がある学生が質問のために利用できる場となっている。

ライサポでは、教員のほか、学生がサポートにあたるのは昨年度と同様である。ただし、ライサポで学生の学修支援にあたるサポーターはサポーターのみの業務を行い、授業に入るSAは授業のみで学習支援にあたるというように、役割が分かれていた昨年度と異なり、ライサポのサポーターはいずれも「言語技術」のSA兼務している<sup>1</sup>。このように、「言語技術」との連携は昨年度より強化されている。

ライサポ内での支援の方針は、昨年度に引き続き、佐渡島ほか編（2013）、関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編（2019）などで示されている様々なライティング支援の場の方針とされている「書き手が主体となる支援を行う」点を重視している。

## 3. 2023 年度の利用者数

2023 年度のライサポ利用者数は延べ571名（前期350名、後期221名）である。そのう

<sup>1</sup> 言語技術SA・サポーターは、3年生が10名、2年生が8名の計18名（うち初めてライティング支援に関わる学生が9名）である。サポーターは、自身の空きコマを利用し、ライサポで1コマ分の業務を行っている。サポーターの業務時間は教員が管理しており、サポーターが在室する時間は、可能な限り2・3年生のペアで、様々な時間帯に分かれるよう配置されている。

ち、2年生以上の利用は31名であった。利用者の延べ人数について、2022年度と比較すると、全体としては30名ほど減少している。ただし、これは、昨年度の状況をふまえ、前期第1週目の課題の提出方法を変更したため、LMSでの提出方法について質問しに来室した学生がいなかったためであると考えられる<sup>2</sup>。そのようなLMSに関する質問を除くと、昨年度に引き続き、安定した運営の継続ができていたといえる。

表1 年度別利用者の延べ人数

|    | 2022年度 | 2023年度 |
|----|--------|--------|
| 前期 | 418    | 350    |
| 後期 | 184    | 221    |
| 合計 | 602    | 571    |

また、利用目的別の延べ人数を見ると以下のとおりである。

- ・「言語技術」欠席回の内容確認：278名
- ・「言語技術」に関する文章の相談など：211名
- ・「言語技術」以外のレポートや文章に関する相談など：82名

本学は、強化スポーツクラブに所属する学生

<sup>2</sup> 2022度は前期授業の第1週に48名の利用があったが、その利用目的は、これまで馴染みがなかったLMSを利用したファイル添付課題の提出方法を質問するためであった。そのような大学のLMSに慣れていない初年次学生の状況をふまえ、2023年度は、授業内でもLMSと一緒に開き、課題提出方法について実際に問題がないか確認する時間を確保した。さらに、提出方法もファイル添付方式ではなく、比較的使用しやすいLMSツールに文字を直接入力する方式とした。

が多く、大会に伴う公欠の機会がある学生も多い。そのような特色のある本学で、欠席回の内容が確認できる場合は、学生の安心に繋がる重要な場であるといえる<sup>3</sup>。

また、「言語技術」以外での利用が延べ82名みられるのもライサポの存在が学内で周知されつつあることを示していると考えられる。具体的な相談内容は「奨学金」「大学院入試」「就職活動」「ゼミの応募」に関する自己PR文章などであった。

### 3.1 利用者の延べ人数からみえる特徴

#### 3.1.1 前期の利用者数

2023年度前期における日毎の利用者延べ人数は以下のとおりである。表中の「第n回」は、その週に授業のn回目が行われていることを示したものである。前期の開室期間は第1回目の授業がある4月10日から、定期試験期間の終わる8月4日までで、合計利用者数は延べ350名であった。

- 4月：計7名（開室日数15日）
- 5月：計57名（開室日数18日）
- 6月：計151名（開室日数22日）
- 7月：計135名（開室日数21日）
- 8月：計0名（開室日数4日）<sup>4</sup>

前期来室者の月毎や曜日内での傾向を見ると各月の中では第3・4週（月の中旬）の利用者が多い傾向にある。これは、2023年度と同様である。

「言語技術」では、期末課題が調査報告型レポートとなっており、その本格的な準備が第7

<sup>3</sup> 第4章で、実際に欠席回の授業内容の確認にライサポを利用した学生のアンケートコメントを報告する。

<sup>4</sup> 8月の利用者数は0名であったため、表は掲載していない。

表2 2023年4月来室者数

|   |       |     | 第1回  | 第2回  | 第3回  | 計 |
|---|-------|-----|------|------|------|---|
|   | 1日～   | 3日～ | 10日～ | 17日～ | 24日～ |   |
| 月 | 授業開始前 |     | 0    | 1    | 3    | 4 |
| 火 |       |     | 0    | 1    | 0    | 1 |
| 水 |       |     | 0    | 1    | 1    | 2 |
| 木 |       |     | 0    | 0    | 0    | 0 |
| 金 |       |     | 0    | 0    | 0    | 0 |
| 計 |       |     | 0    | 3    | 4    | 7 |

表3 2023年5月来室者数

|   |     |     |     |     |     | 計  |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|----|
|   | 1日～ | 第4回 | 第5回 | 第6回 | 第7回 |    |
| 月 |     | 0   | 1   | 1   | 0   | 2  |
| 火 |     | 3   | 2   | 0   | 3   | 8  |
| 水 |     | 3   | 18  | 3   | 4   | 28 |
| 木 | GW  | 1   | 7   | 5   | /   | 13 |
| 金 |     | 2   | 2   | 2   |     | 6  |
| 計 |     | 9   | 30  | 11  |     | 7  |

表4 2023年6月来室者数

|   |     |     |      |      |      | 計  |     |
|---|-----|-----|------|------|------|----|-----|
|   | 第7回 | 第8回 | 第9回  | 第10回 | 第11回 |    |     |
|   | 1日～ | 5日～ | 12日～ | 19日～ | 26日～ |    |     |
| 月 | /   | 3   | 3    | 1    | 11   | 18 |     |
| 火 |     | 0   | 5    | 6    | 5    | 16 |     |
| 水 |     | 4   | 14   | 22   | 16   | 56 |     |
| 木 |     | 0   | 3    | 8    | 2    | 8  | 21  |
| 金 |     | 1   | 1    | 3    | 11   | 24 | 40  |
| 計 |     | 1   | 11   | 33   | 42   | 64 | 151 |

表5 2023年7月来室者数

|   |      |      |      |      |            | 計  |     |
|---|------|------|------|------|------------|----|-----|
|   | 第12回 | 第13回 | 第14回 | 第15回 | 定期試験<br>期間 |    |     |
|   | 3日～  | 10日～ | 17日～ | 24日～ | 31日～       |    |     |
| 月 | 0    | 1    | 1    | 5    | 0          | 17 |     |
| 火 | 4    | 5    | 4    | 8    | /          | 21 |     |
| 水 | 1    | 17   | 10   | 22   |            | 60 |     |
| 木 | 0    | 0    | 3    | 9    |            | 12 |     |
| 金 | 3    | 5    | 13   | 4    |            | 25 |     |
| 計 | 8    | 28   | 31   | 48   |            | 0  | 135 |

回授業（5月29日～）から始まる<sup>5</sup>。それに伴い、ライサポの利用者数も増加している。また、レポートの初回提出から最終的なレポートを出すまでの「リライト期間」である第13回～第15回授業期間の利用者も多くなっている。このように、ライサポは積極的に言語スキルを磨こうとする学生が活用できる場ともなっている。

<sup>5</sup> 第7回以降の「言語技術」の授業内容は以下のとおりである。第7・8回：レポートの問い・テーマを考える／第9回：レポートの構成／第10回：資料の扱い方、引用ルール・アウトラインの作成／第11回：第1回レポート提出／第12・13・14回：レポートリライト期間／第15回：最終レポート提出

### 3.1.2 後期の利用者数

2023年度後期における日毎の利用者延べ人数は以下のとおりである。後期の開室期間は第1回目の授業がある9月25日から、定期試験期間の終わる1月30日までで、合計利用者数は延べ221名であった。

- 9月：計1名（開室日数5日）
- 10月：計56名（開室日数22日）
- 11月：計89名（開室日数22日）
- 12月：計42名（開室日数16日）
- 1月：計33名（開室日数15日）

後期利用者数は、2022年度と比較すると40名程度増加している。竹内（2023）で示した昨年度のデータと比較すると、利用者が少ない月が見られないというのが特徴である。その中

表 6 2023 年 9 月来室者数

|   |           |     |      |      | 第 1 回 | 計 |
|---|-----------|-----|------|------|-------|---|
|   | 1日～       | 5日～ | 12日～ | 19日～ | 25日～  |   |
| 月 | 学生<br>夏休み |     |      |      | 0     | 0 |
| 火 |           |     |      |      | 0     | 0 |
| 水 |           |     |      |      | 0     | 0 |
| 木 |           |     |      |      | 0     | 0 |
| 金 |           |     |      |      | 1     | 1 |
| 計 |           |     |      |      | 1     | 1 |

表 7 2023 年 10 月来室者数

|   | 第 2 回 | 第 3 回 | 第 4 回 | 第 5 回 | 第 6 回 | 計  |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|----|
|   | 2日～   | 9日～   | 16日～  | 23日～  | 30日～  |    |
| 月 | 0     | 0     | 1     | 0     | 3     | 4  |
| 火 | 0     | 0     | 6     | 2     | 2     | 10 |
| 水 | 1     | 3     | 13    | 5     | /     | 22 |
| 木 | 0     | 1     | 7     | 3     |       | 11 |
| 金 | 4     | 2     | 1     | 2     |       | 9  |
| 計 | 5     | 6     | 28    | 12    | 5     | 56 |

表 8 2023 年 11 月来室者数

|   | 第 6 回 | 第 7 回 | 第 8 回 | 第 9 回 | 第 10 回 | 計  |
|---|-------|-------|-------|-------|--------|----|
|   | 1日～   | 6日～   | 13日～  | 20日～  | 27日～   |    |
| 月 | /     | 0     | 6     | 1     | 1      | 8  |
| 火 |       | 3     | 2     | 2     | 0      | 7  |
| 水 | 4     | 9     | 8     | 5     | 11     | 37 |
| 木 | 3     | 4     | 1     | 9     | 1      | 18 |
| 金 | 6     | 7     | 2     | 4     | /      | 19 |
| 計 | 3     | 23    | 19    | 21    | 13     | 89 |

表 9 2023 年 12 月来室者数

|   | 第 10 回 | 第 11 回 | 第 12 回 | 第 13 回 | 計         |      |
|---|--------|--------|--------|--------|-----------|------|
|   | 1日～    | 4日～    | 11日～   | 18日～   |           | 25日～ |
| 月 | /      | 1      | 2      | 0      | 学生<br>冬休み | 3    |
| 火 |        | 0      | 5      | 1      |           | 6    |
| 水 |        | 5      | 8      | 3      |           | 16   |
| 木 |        | 2      | 4      | 5      |           | 11   |
| 金 |        | 0      | 2      | 2      |           | 6    |
| 計 | 0      | 10     | 21     | 11     | 42        |      |

表 10 2024 年 1 月来室者数

|   | 第 14 回    | 第 14 回・ | 第 15 回・ | 定期試験 | 計         |    |
|---|-----------|---------|---------|------|-----------|----|
|   |           | 15 回    | 定期試験    |      |           |    |
|   | 1日～       | 8日～     | 15日～    | 22日～ | 29日～      |    |
| 月 | 学生<br>冬休み | 学生      | 2       | 4    | 0         | 6  |
| 火 |           | 冬休み     | 6       | 1    | 0         | 7  |
| 水 |           | 2       | 12      | 0    | 学生<br>冬休み | 14 |
| 木 |           | 0       | 1       | 1    | /         | 2  |
| 金 |           | 1       | 3       | 0    | /         | 4  |
| 計 |           | 3       | 24      | 6    | 0         | 33 |

で、11月の利用者が多いのは、言語スキル部門が開催した学内ゼミのエントリーシート作成のためのワークショップ<sup>6</sup>と連動して、アドバイスを求めに利用する学生が多かったためであ

る。このように、ワークショップとの連携は、学生にライサポを有効活用してもらうために重要であることがわかる。

### 3.2 利用者の実人数からみえる特徴

利用者の実人数は298名で、うち274名が1年生、24名が2年生以上の学生である。「言語技術」の履修者では5割程度<sup>7</sup>がライサポを利用している。

298名のうち、ライサポを複数回利用した学生は、約4割の122名であった。そのうち、授業欠席者に義務化されている欠席回の補習目的のみの利用をした学生が27名、欠席回の補習以外の目的も含めて利用した学生が95名であった。学生からは、欠席回の補習目的で利用し、質問しやすさを感じたためその後自主的な相談のために活用したという声も多く聞かれた。このように、授業でライサポ利用を働きかけることで、利用者が増加し、それが学生の自主学習に繋がっていると考える。

## 4. ライティング・サポートデスクの利用に関するアンケート結果

ここまで、利用者の人数から見える特徴を報告したが、ここでは2023年度「言語技術」履修生に行った「ライサポ利用アンケート」の結果について報告する。

アンケート調査の詳細は以下のとおりである。

- ・実施期間：後期の第15回授業（2024年1月18・19日）内
- ・回答者：「言語技術」履修者（全クラス対象）

<sup>6</sup> 「11月のワークショップ～書くよゼミ エントリーシート～」という名称で11月9・10・13・15・16・21・22・23日の計8日間オンラインで開催した。

<sup>7</sup> 来室者の所属学部は「言語技術」が履修指定科目になっている法学部、経営学部がほとんどである。2023年度の両学部を合わせた「言語技術」の履修者は519名（後期）である。

- ・回答方式：記述式（手書き）
- ・質問項目：計5項目（うち回答者はいずれも3項目に対して回答する形式）。

#### ①のみ選択式

①ライティング・サポートデスクを利用したことがありますか。はい/いいえ

①が「はい」の人に対する質問項目

②どのような目的で利用しましたか。

③利用してよかった点、改善してほしい点はどのような点ですか。具体的に教えてください。

①が「いいえ」の人に対する質問項目

④利用しなかった理由を教えてください。

⑤今後、どのようなことがあれば利用したいと思いますか。具体的に教えてください。

上記の③について、「良かった点」として多く挙げられているのが1対1で対応してもらえる点、いつでも相談ができる点、欠席回の内容がわかったというものであった。また、利用したことで、自分の頭の中が整理でき、次へのステップに繋がったという回答も多く見られた。以下、具体的な回答を挙げる。

- ・「1対1で教えてもらえるのでわかりやすかった」
- 「1対1で話せるので、聞きたいことがすぐ聞ける」
- ・「いつでも相談できる状況がありがたいとかんじた」
- 「常に先生がいることがよかった」
- 「必ず先生かSAさんがいてくれた」
- ・「欠席回の内容が聞いて、次の授業にしっかりついていくことができた」
- 「休んで分からなかった分、しっかりと教えてくださり、とても助かりました。」
- 「授業に遅れることなくついていくことができた」
- 「欠席したことにより他のクラスメイトと

の差ができてしまうけど、ライサポのおかげでおいていかれずにすんだ」

- ・「一緒に考えてくれてありがたかったです」「先生と話し、まとめていくなかで、自分の中で内容が整理され、レポートが書きやすくなった」

「行きづまっていたものが、次なにを考えればよいのか進め方がわかった」

「自分では気づかない点に気づけて、よりよいものを仕上げることができた」

ライサポにいる自分の授業担当ではない教員、SA にも丁寧に対応してもらえてよかったという回答が多かった一方で、改善して欲しい点として「SA さんがいる時間を増やしてほしい」「自分の担当教員がいる時間も教えて欲しい」という回答もみられた。また、ライサポについて「SA と教員だけなので少し入りづらく感じた」という回答も見られた。

上記の④としては自分で考えようと思った、授業だけで問題なく進めることができたという理由が多く挙げられていた。一方で、正課授業ではない場所にあえて行くのは億劫であるといった回答や時間がなくて行くことができなかったという回答、行く必要があったのに行って聞くとという習慣がなく、行くのを忘れてしまっていたという回答も見られたことから、今以上に学生生活に馴染む場づくりを工夫していく必要がある。

## 5. 結び

本稿で示した利用者数やアンケート調査から以下の2点を確認することができた。

- 1) 正課授業である「言語技術」やワーク

シヨップとの連携により、学生がライサポを積極的に利用しようとする機会を増やすことができている。

2) 利用をして「自分の中で整理できた」「わかるようになった」経験が、もう少し成長に向けて頑張ってみようというモチベーションにもつながっているようである。

一度利用した経験が、次の利用に繋がる学生が多い一方で、授業外での学習にあまり馴染みがなく、一度目の利用に高いハードルを感じている学生も見られる。今後の課題として、学生生活に馴染む場づくりを教員、SA など様々な目線から考える必要がある。

## 参考文献

- 関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編（2019）『大学におけるライティング支援—どのように〈書く力〉を伸ばすか』東信堂
- 近藤裕子（2023）「高大・大社接続を目指した言語スキル教育の取り組み—初年次「言語技術Ⅰ・Ⅱ」を中心に—」『山梨学院大学紀要 学習・教育開発センター標』第1号 pp.15-21
- 佐渡島紗織・太田裕子編（2013）『文章チュータリングの理念と実践 早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』ひつじ書房
- 竹内はるか（2023）「2023 年度・山梨学院大学ライティング・サポートデスクにおける取り組み」『山梨学院大学紀要 学習・教育開発センター 標』第1号 pp.35-40